

第612号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2020年3月17日  
 発行責任者 喬木村公民館 長 徹  
 市 瀬 公民館 編集部長 志  
 編集責任者 公民館 編集部長 志  
 印刷 龍共印刷株式会社

### 公民館平和学習会

## 追悼「中村哲医師が遺したもの」

講師 飯田市美術博物館専門研究員 青木隆 幸さん

今年度最終の平和学習会は、講師に飯田市美術博物館専門研究員の青木隆幸先生をお迎えして、昨年十二月四日にアフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲さんについて学びました。当日は百名近くの方が参加して下さり、あらためて関心の高さを感じました。

前半の映像(中村医師の人道支援活動をまとめた作品)で音声流れないとい

かたは残念ですが、青木先生の熱い語りとともに大きな活動の記録を観るこ



中村哲さん



講師 青木先生

来た子どもたちの笑顔が印象的でした。「百の診療所よりも一本の水路を」を信念に水路の建設と再生を進めて、現在は六十五万人の命を支えているそうです。この間、アフガニスタン周辺では、ソ連軍の撤退、内戦、アメリカによる空爆、そしてイラク戦争等々、命の危険にさらされ続けていたことを思うと、何度この映像を観ても信じられないような気持ちになります。

「作業地の上空を米軍のヘリコプターが過ぎてゆく。彼らは殺すために空を飛び、我々は生きるために地面を掘る。彼らはいかめしい重装備、我々は埃だらけのシヤツ一枚。彼らには分らない幸せと喜びが地上にある。」哲さんの言葉は、どの言葉も美しく力強く心を打ちます。ペシャワール会会長は、告別式の弔辞で「哲先生の意志を守り前を向いて歩む」と誓ったという報道がありました。このような事業が、日本の多くの支援者に支えられていることも心強いことだと思います。(横前)

映像は、遠いアフガニスタンの荒漠とした赤茶けた土地で、人々がスコップを手に掘り進め、石を砕き、日本の伝統工法に学びながら石を詰めた蛇籠を積み上げていく様を描いていました。完成した全長十三kmの用水路に、初めて流れされた水が足元まで来るのをうれしそうに見ている小柄な哲さんの笑顔と、集まって

とができ、忘れられない体験になりました。



講演会の様子

## 喬木村の土偶について

文化財保護委員 林 修 亨

皆さんは土偶と聞いてどのような姿を思い浮かべますか。ふくよかな体型の「縄文のビーナス」でしょうか。

たのでご紹介致します。まず、資料館の案内板に

「土偶は縄文人の女性(母性)をイメージした祭りの対象物(女神)と考えられ、ばらばらに壊れた状態で発見されることから土偶を壊すことにより祭りが行われたと考えられます。安産や子孫



下富田地の神遺跡の土偶

繁栄、自然の恵みへの祈りとして使われたと云われる」とあり、資料館の土偶は四千五百年前縄文中期の作品とされています。

一点目は下富田、地の神遺跡から発掘された「出尻形



伊久間原遺跡の土偶

ら発掘された「眼下に刺青か涙の表現がある土偶」です。ピンポン玉位の大きさでラグビーボールのような形に目鼻と口を開けた素朴な感じの土偶です。

古墳時代等の大型土器等に押されて見つけるのが難しいと思われ、資料館にお越しの際は声を掛けて下さい。縄文人になり替わりご案内致します。

参考資料 県立歴史館土偶展・地神遺跡発掘報告書

## 松澤拓弥さん

### 第九十六回箱根駅伝大会出場報告会

第九十六回箱根駅伝大会に復路七区(二十一・三キロ)を走った法政大学四年松澤拓弥さんの報告会が二月十七日に行われ、市瀬村長、および多田体育協会会長からそれぞれ激励金が授与されました。

松澤さんは平成三十年の第九十四回箱根駅伝大会において往路四区(二十一・四キロ)を走った経験があり、箱根駅伝の出場は今回二度目です。今年チームは総合十五位となり、惜しくも入賞を逃したものの、大学生として最後の年に全



役場で報告されました

## あの時

新型コロナウイルスの感染が止まらない。政府の対応は後手に回り、水際対策は失敗に終わったと言える。クルーズ船ダイヤモンドプリンセスで二週間留め置かれていた乗客の中には、下船後に陽性になった方も多くおられる。二月末安倍首相は唐突に小中高特別支援学校の春休みまでの休校を要請した。前例のない対応に現場は苦慮しているだろうが、何があっても対応せざるを得ない。「感染者が出ていない地域までやる必要はない」と批判したり、「学校を休校にすることは無理だ」と独自の対応をしたりすることはできない。

改めてトップの権限の大きさを感ずる。鶴の一声である。共働きの親たちは子どもの面倒をどうやって見ればいいのか、休校中の子どもの居場所をどうするのか、その子どもたちへの感染は防げるのか、未履修になる学習をどう補填するのか、学習の評価をどうするのかなど、考えなければならぬことは山ほどある。安倍首相のトップダウンで行われる休校措置が功を奏し、感染拡大に歯止めがかかることを祈りたい。

当然考えられていると思うが、不安な方が確実に検査を受けられるようにしたり、医療機関の対応を充実させたり、特效薬の開発に力を注いだりといった対応にも、しっかりとお金をかけてやってほしいと私は思う。(館長)



# 第37回 ふるさとづくりフォーラム

# テーマ来たぞ!災害 その2

# パニック!そのときあなたはどうする?

二月九日(日)、福祉センターを会場に第三十七回ふるさとづくりフォーラムが公民館と喬木村社会福祉協議会の共催で開催されました。当日は約百二十名の皆さまが参加しました。村づくりをみんなで考える、ふるさとづくりフォーラムは、今回も公民館社会部が中心となり、実行委員会が取り組んでいる事業です。

今年度は昨年に続き、「災害」を題材にしました。テーマを「来たぞ!災害 その2 パニック!そのときあなたはどうする?」とし、まず喬木村社会福祉協議会より、昨年の台風十九号により甚大な被害を受けた長野市に災害ボランティアに行った体験を報告していただきました。続いて「わがこと!防災 主体的に取り組むコツは」と題して飯田市危機管理室の後藤武志さんに講演していただきました。最後に、参加者全員で阪神淡路大震災で実際に起こった課題をもとに考えられたクロスロードというゲームを、中学生から自治会役員まで様々な年代、立場の人が一つのグループになつて行いました。判断に迷う問題ばかりでしたが、一人一人がしっかり考え、活発に意見を交換することができました。実行委員の皆様の協力のもと、今回のフォーラムを無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

## ふるさとづくりフォーラム

実行委員長 知久隆文



## 災害ボランティア活動報告

喬木村社会福祉協議会より

災害をテーマに、二月九日(日)公民館と社会福祉協議会の共催による第三十七回ふるさとづくりフォーラムが行われました。

社協からは、昨年の十二月八日(日)に行った台風十九号における災害ボランティアバスパック参加者と、災害VC運営支援に携わった社協職員から報告させていただきました。

災害ボランティアバスパックでは、高校生から幅広い年代の方達が関わってくださり、ボランティアに参加された方々の熱い思いを村民に届けようということで、ボランティア活動で着用したビブスを着て皆でステージに上りました。そして、参加者を代表して数

ふるさとづくりフォーラムも今年で三十七回目を迎えました。今年度も昨年引き続き、講師として飯田市危機管理室より後藤武志さんをお招きして災害について学ぶことにしました。

今回は、中学生や高校生、そして役場関連の職員や自治会の役員の方など、幅広くお集まり頂きました。長野市への災害ボランティアに参加された方々の体験談及び報告をお聞きした後、クロスロードというカードゲームをしました。災害の時は、様々な場面二者択一の選択を迫られますが、その時、自分はどうするかを考え、グループで意見交換をする

という内容です。今までは、どちらかという災害に対してどのような知識を、講師の方から聞いて学ぶという内容が多かったと思います。そこで、今回は自分を様々な立場と仮定し、何を根拠にどう判断するかを考えて、その場にいる人達と意見

を交換して様々な考え方があることに気づけるような内容にしました。災害ボランティアに参加された人の実体験や、今回のフォーラムで気づいたことを生かし、新たな視点から避難訓練の在り方なども考えて頂ければ幸いです。



台風19号災害ボランティアの様子

名の方に報告してもらいました。「ボランティアバスパックと一緒にボランティア活動したという新たなつながりができ、ボランティアを終えたあとも達成感でいっぱいでした。」「被災地に行き、バスを降りた時のあの匂い、あの景色は未だ

と改めて感じました。」「四月からは警察の仕事に就きます。警察官は人助けの仕事でもあります。その人助けをしたいと思い、個人でボランティアに参加しました。この経験を活かして警察官になっても住民に対して災害対策に取り組んでい

きたいです。」「ボランティア活動に行き、自分たちの街が一日で変わり果ててしまい、その悲しみは被災者にしかわからないことであり、周りの人がその気持ちを理解し、配慮してあげることが大切であると感じました。」「被災されて二カ月たらず、被災された家族が気持ちを切り替えて前向きに力強く歩き出そう

として、この報告があり、フォーラム参加者の方からは、「高校生の報告に感動した」という声をたくさん聞くことができました。続いて、社協職員から災害ボランティアセンターの運営支援にあたった体験について報告を行いました。社協では、来年度早々に



災害ボランティア活動の報告

災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を行う予定です。この台風十九号災害により得た教訓を自分たちのものにし、災害に強い村づくりを支援していきたいと思えます。そして被災された方々に少しでも穏やかな暮らしが戻るよう祈りたいと思います。

後藤ワールドの始まりだ!さあ、みんなで考えます。暖房器具が使えない。テレビが見れない。それから? それから? それから? 藤さんからの回答: 「皆さんが出してくれた以外に、ガンリンが入れられなくなるということもありま

## 講演会

# 「わがこと!防災」

# 主体的に取り組むコツは

講師 飯田市危機管理室次長補佐兼防災係長 後藤武志さん



講師 後藤武志さん

昨年続いて2回目の後藤さんの講演。今回は熊本地震に派遣されたときの経験に基づいてのお話でした。災害につけこんでの詐欺や窃盗がこの日本でもありと聞いてショックだったことを思い出しました。

今回は大雨で被災した千葉県での話を軸に講演は進められました。長野市でも甚大な被害があったばかりなので、より切実な内容でした。「停電したらどうなると思いますか? 皆さん3日くらいで復旧すると思っているのでしょうか? 千葉では1週間以上停電したんですよ」と話されました。

「スタンダードでの給油も電気でもかかっています。ガソリンが入りません。ということは、車が使えなくなるといことです。災害時、車が使えないと何かと不便です。役場でブルーシート配布しますって言われてどうやって取りに来ま

すん? どういうこと? 「スタンダードでの給油も電気でもかかっています。ガソリンが入りません。ということは、車が使えなくなるといことです。災害時、車が使えないと何かと不便です。役場でブルーシート配布しますって言われてどうやって取りに来ま

か? 家族で、地域で災害について考え、話し合う必要があるのだと思う。まずそこからスタートしよう」という思った講演会でした。



講演会の様子



# クロスロード



様々な考えを知るクロスロード

クロスロードとは、阪神・淡路大震災で、災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材。5人のグループで行い、参加者は問題カードの設問について自分なりの理由を考え、「Yes」か「No」か、どちらかに決め、カードを選びます。災害を自分の身に引き寄せて考えると同時に、他者の様々な考えを知ることができるゲームです。

今回約百名の参加者が5名ずつのグループに分れ、ゲームを行いました。各グループには、中学生、高校生、一般の皆さんがランダムに振り分けられており、世代の違う参加者が、講師の後藤さんが示す設問に対して意見を交わしました。

設問1 あなたは、援助物資担当責任者。援助物資の古着が大量に余ってしまった。施設内には保管する場所はない。倉庫を借りるのも費用がかかる。いっそ、焼いてしまおう？  
Yes (焼く)  
No (焼かない)

設問2 あなたは、ボランティア 活動をしていたら、地元のおばあちゃんから「お疲れ様、これ食べよ」とちり紙に包まれたおまんじゅうを手渡された。その場で食べる？  
Yes (つかう)  
No (つかわない)

設問3 あなたは、食料担当。被災から数時間。避難所には三百人が避難しているとの確かな情報が得られた。現時点で確保できた食料は二百食。以降の見通しは今のとこなし。まず、二百食を配る？  
Yes (配る)  
No (配らない)

設問4 あなたはPTA会長。大地震から1ヶ月が経過。仮設住宅建設に向けて動き出している。これまで確保出来ている用地だけでは少なくとも100棟分不足。この際、公立小、中学校の運動場も使う？  
Yes (つける)  
No (かけない)

設問5 あなたは、被災した病院の職員。入院患者を他病院へ移送中。ストレッチャー上の患者さんを報道カメラマンが撮ろうとする。腹に据えかねる。そのまま、撮影させる？  
Yes (撮影させる)  
No (させない)

設問6 あなたは、避難所受付担当。現在、避難所となった体育館に、館内では、毛布が不足気味。折よく取材に来たTVニュースの番組クルー。テレビを通じて毛布提供を呼びかける？  
Yes (呼びかける)  
No (かけない)

設問7 あなたは救急隊員。多くのけが人が出た現場。がれきの下から家族が救出された。父親と母親は重傷だが手術すれば助かりそう。一方、子どもは心肺停止状態。助かりそうなら、両親から運ぶ？  
Yes (両親を運ぶ)  
No (子どもを運ぶ)

設問8 あなたは、ボランティアセンターのスタッフ。避難所から余った弁当がボランティアセンターに届けられ、希望者に配ったところ、「被災者以外が食べるのはおかしい」という指摘があった。配布をつづける？  
Yes (続ける)  
No (やめる)

設問9 あなたは、ボランティア炊き出しの手伝いと言われてTシャツで行ったら、「まだ泥出しが残っているので、先に手伝って」と頼まれた。現場はまだ少し臭っているような状況。泥出しを手伝う？  
Yes (手伝う)  
No (断る)

設問10 あなたは、社協災害ボランティア担当課長。被災翌日。全国から続々とボランティアが集まってきた。初日だけでも百人。この調子だと明日以降何人来るか見当もつかない。人手はありがたいが事故も心配。村の費用で1人七百年のボランティア保険を、全員にかける？

設問11 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに」

設問12 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問13 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問14 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問15 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問16 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問17 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問18 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問19 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問20 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問21 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問22 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問23 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問24 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問25 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問26 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問27 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問28 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問29 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問30 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問31 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問32 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問33 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問34 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問35 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問36 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問37 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問38 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問39 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問40 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問41 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問42 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問43 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問44 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問45 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問46 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問47 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問48 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問49 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問50 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問51 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」

設問52 あなたは、被災した地区の自治会長。被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに感謝状を渡す。その際、ボランティアの皆さんに「被災者への支援活動で、ボランティアの皆さんに」



中学生、高校生が大人と一緒に話し合いました

## クロスロード感想

- 置かれる立場で考え方で行動が変わってくる事を学びました。
- 実際にあった事に基づいて解説をしてくれたし、いろいろな意見を出したり聞いたりすることで、共感などいろいろできたのでよかったです。
- 以前にも他でやったことがあり、いつも答えがない所が考えさせられて良い。
- 身近な事であるが、全く備えが出来ていない事を実感した。
- 自分の意見を持つだけでなく、周りの人に話すことによつてこれから考えていくなかで、いい練習にもなった。
- 人それぞれなので、どれを選んででも正解ではないことを知れた。リスクを想像することも大事だし、実行していかないといけないと思いました。
- 自分の思っていることと反対の意見もあり、しかも納得できる答えも多くあったので、勉強になった。

- 場によつて答えも違うと思うので、被災した人の気持ちになつて考えることが重要だと感じた。
- 十人十色、様々な意見を聞くことができて良かった。立場で意見が変わることも参考になった。中学生の意見が聞けたことも成果。ぜひ来年も中高生参加を。
- おとなの考えをきくことができ、多くのことを学べた。
- 災害はいつ起こるのかわからないけれど、日々備えることがとても大事なんだなと思いました。
- 平時には起きないような問題提起を経験できてとても良い経験でした。
- 地元へ持ち帰って皆で考えてみたい課題があった。皆で災害を時折イメージする必要性を感じた。
- Yes・No決めるのはきつい！「どっちでもいい」は救われる。
- 決断する事は大変であるが、その中でも方法があり、思いがあるかわかった。
- 他人の意見を聞く中で自分にはない考えを発見するいい機会になったと思う。
- 地域の人とふれあえたし、いろんな意見も聞けた。
- もしものことも考えることができたし、これからの活用できるから。
- もしもの事が起きたらその時その時の対応が大切で、答えが変わったりするんだと思った。
- 自分が考えられないような理由もあったし、本当に選択に悩みました。
- 災害についていろんな事を教えていただいたので、これからの自分の行動を変えてみたい。
- 救急の話でもとても悩んだ。人によつて判断はちがうことを学べて良かった。
- Yes・Noでちがう立場の意見を聞くことができ共感できる所がたくさんあった。どのような被害にあうか想像するのは大事なので何が必要なのか考えてあらためて用意しておきたい。
- 今後いつ起こるかわからない災害に対する対策について勉強になった。
- 災害ボランティアの報告を聞いて良かった。中学生が参加し、災害時の活躍が期待できそうである。今後も関心を持ってもらいたい。
- 長野県内で大きな災害があったにも関わらず自分の備えの甘さに気付きました。
- 防災について普段備えが必要だと思いつつも、思っているだけで終わってしまっていた。
- この講演を聞き備えの大切さを身にしみて感じました。家に帰ったら家族とも話をして備えや災害の時のきまり事を決めたいと思います。
- 災害ボランティアバスに参加した高校生の感想がとてもしつかりとした考え方で、大変に良かった。中学生が大勢参加されていて、頼もしく感じました。
- 中学生の自分でも考えさせられることもあったし、今日のフォーラムで見たり聞いたりしたことを他の人に伝えたい。
- 大変勉強になりました。中高生が多数参加してボランティアに興味を持っていただき嬉しく思います。
- 地域の方々と考えあつたり聞いたりして災害のこの大切さも分かった。
- 災害に対して姿勢が変わりました。日頃からの生活で、もし災害が起きたら何をするか、起きる前に何を準備しておくかを考えておくことが大事である。
- 災害に対する備えを全然準備出来ていない状態なので、番木村で起きることを想定して意識付けを変えていきたいと思いました。
- 年代を超えた話し合いが出来て今後の参考になりました。
- 中学生も参加できるふるさとづくりフォーラム良いので広めてほしい。

## 感想や提案



# ふるさとづくりフォーラムを終えて

（COURTESY）

公民館長 市瀬 徹

今日は「第三十七回ふるさとづくりフォーラム」にこのように多くみなさんにご参加いただき、主催者として大変うれしく思います。

2 パニッック！そのときあなたは？



市瀬公民館長のあいさつ

「昨年、今年に続いて災害時の対応についてみなさんとともに学びを深める場となりました。災害のない平和な1年であってほしいと願ったわけですが、今年度も各地で大きな災害が起こりました。身近なところでは、十月に東北信に大きな水害をもたらした台風十九号、喬木村からも役場、社会福祉協議会職員、そして、今日ボランティア活動の報告をしてくださいました。被災された地域の方々が行ってくださいました。被災された地域の一日も早い復旧を願うとともに、支援活動にあたってくださった方々に感謝したいと思えます。昨年、今年に引き続き、



フォーラムの様子

指導いただいた飯田市危機管理室の後藤さんのお話を聞き、災害に対する自分の考えの甘さを改めて思わされました。歴史は繰り返すといいますが、過去の災害を忘れることなく自然に對

することが大事だと思えます。また、長野市へ災害支援ボランティアとして行かれたみなさんの報告からは、大変だったけれど、貴重で得難い体験をされたことがわかりました。ボランティア活動に参加しようと思っただけ、活動に参加して感じたこと、考えたことは、体験を通しての言葉なので、説得力があり、私の心にぐんぐんと入り込んできました。特に高校生の発表には感動し心が震えました。若者のたくましさややさしさを強く感じ、地域の将来に対して明るい希望がもてました。さらに、

昨年にも増して大勢の中学生が参加してくれたことも大きな意味があったと思います。年齢の近い高校生がどんな思いで災害ボランティアに行ってきたのかを生で聞けたことは、きつと

感受性豊かな中学生の心に大きな刺激となったのではないかと思います。また、クロスロードで判断の理由を語る中学生の言葉は、大人とは違う新鮮さがあったと思えます。

私は、公民館活動の目的は「仲間づくり」が大きな部分を占めていると思っています。住民の「主体的な学び（取り組み）」を大事にする公民館活動は、万一災害が起こったとき、地域の基盤となる地域の方々のつながりづくりだと信じています。様々なことに主体的に、積極的に取り組める方が増え、地域の方々のつながりが深くなっていくことが、地域の防災力を高めることになるのだと信じ、今後も公民館活動を推進していく大事な視点にしようかと改めて思いました。

もう一度ご指導いただいた後藤さん、そして、台風十九号災害ボランティアのムにお出でいただいた皆さん、ふるさとづくりフォーラムの企画運営にかかわっていただいた実行委員の皆さん、そして、関係していただいたすべての皆さんに感謝し、まとめたいと思います。

報告をくださった皆さんに、感謝を込めて大きな拍手をお願いします。ありがとうございました。

クロスロード 設問を提示する後藤さん

## 如月歌会詠草

たかぎ短歌会

幾年か孫と続けし書初めを今年に独りで「合格」と書く  
 暁のピンクに染まるアルプスのまだ夢覚めぬ里の人びと  
 三十三歳優勝片や土俵去る明暗分けて初場所終はる  
 カブルより無言の帰国中村医師悲しみ乗せて極運ばる  
 蔓延す新型コロナに影薄し豚コレラ未だ終息みせず  
 若き日の踊りの衣装数多ありぼつぼつ終活断捨離となす  
 朝朝をのこぎり椰子にせがまれて水やりすればピンと空向く  
 暖冬の園に遊ぶ児らに交じりセキレイ尾を振り飛び回りをり  
 暖冬の今年も咲けど福寿草輝くほどの金色見せず  
 暖冬のしつぺ返しがあるやなど新年会の話は尽きず  
 ユニセフのマンスリーサポート続けしが難民の飢餓未だ変はらず

- 小 椋 りよ
- 桐原 邦夫
- 市瀬 准子
- 田中 妙子
- 知久 美子
- 木下 寿子
- 関島 春子
- 木林 睦枝
- 内山 和子
- 元島 康子
- 福澤 亀人

## 椋鳩十読書感想文コンクール



優秀賞 「ああ公」  
 喬木村第一小学校 三年 牧内 優里佳

## 受賞作品

『からすのああ公』  
 わたしは、このお話を読んでああ公がしんどいと思って、かわいそうだと思ってしまう。  
 でも、ああ公は本当にふこうなからすだったのだから、いたずらぼうずたちから、たすけてもらいました。おじさんは、箱にわたをしていてねる場所を作ってくれたり、ドジョウを買って

きて食べさせてくれたりしました。  
 ああ公は、おじさんになれていきました。  
 仕事をしているときに手をついたときにおじさんににらまれても、首をちよつと横にかたむけて、あまえた表じょうで見上げていました。  
 また、おじさんに頭をなでてもらって、いい気持ちで目をとじてよりかかったりする所がかわいかったです。

ああ公は、ずつとおじさんのそばにいつしよにいたかったんだと思います。  
 でも、おじさんはああ公がからすのなまかまに入つて、しぜんの中を自由にとび歩くほうがあわせじやないかと思いました。  
 そこでおじさんは、からすの集まるまつ林に、何でもつれて行つたりちよつと外国りよこうをしなければいけないなり、ああ公から少しはなれました。  
 このころのああ公は、かなしい気持ちだったと思えます。  
 おじさんも、ああ公のこ



## 編集後記

新型コロナウイルスが広がっている。人の移動が制限されている。こんなにも多くの方面に影響が出ると思わなかった。

このウイルスの厄介なところは、症状が出ていないのに感染していて、それがまた人にうつしてしまうという所だろう。とにかくかぜの予防とおなじで、手洗いをよくして、ちゃんと食べ、よく寝て、免疫力をつけることらしい。また狭い所や、換気の悪い所を、避けるのが予防となるらしい。

買い占めはこまったものだ。デマには注意しなくてはいけない。こうゆう時は不安になっているから、よけい不安をおおる事に飛びつくのも。